

## 仕様書

NEDOフロンティア部

### 1. 件名

「NEDO先導研究プログラムにおける2026年度VIPワークショップの開催に係る分析調査」

### 2. 目的

NEDO先導研究プログラムでは、2040年以降（先導研究開始から15年以上先）の社会実装を見据えた革新的な技術の提案を募集することによって、脱炭素社会の実現に資する有望な技術や新産業創出等に結びつく技術のシーズを発掘、育成して、国家プロジェクトを含む産学連携体制による共同研究等につなげていくことを目的として事業を実施している。

NEDO先導研究プログラムでは、情報提供依頼（RFI）を行い、大学や企業等から、技術シーズを収集し、これらの内容に基づいて、公募時に研究開発課題を提示している。

本調査業務では、ビジョナリー・インキュベーション・プログラム（VIP）<sup>i</sup>の定着に向け、RFI等により提出された技術シーズの中からVIPの対象とする候補について、先導研究で取り組むべき技術開発課題の設定に資する観点から適性分析を行う。また、技術シーズの情報<sup>ii</sup>をもとに、潜在的価値を高めるための論点を分析し、その技術シーズの潜在的価値を高める機会としてVIPワークショップを企画検討し開催を支援する。

これらにより、次回以降のRFIにおいて、2040年以降の社会実装の実現に資する有望な技術シーズの提案を一層促すことを目指す。

### 3. 業務内容

#### （1）VIP テーマ候補の分析・選考

NEDO先導研究プログラムのRFIにより提出された技術シーズについては、NEDO内にて公募課題の選考過程で評価（RFI評価）している。これをもとにVIPの対象として絞り込んだ技術シーズをテーマ候補（VIPテーマ候補）とする。このVIPテーマ候補について、適性確認を行う。

本調査事業の遂行にあたりNEDOから提供が必要な情報については、NEDOと協議の上で提供を決定する。

- ・2025年度実施のRFI（RFI提出数は総数で400件程度）を基に、適性確認の対象候補をNEDOと協議の上で確定する。（40件以内と想定）
- ・NEDOのRFI評価については、主に先導研究の事業フェーズに見合う技術課題として採用できるかの観点で行っている。RFI評価軸については、以下の通り。

(RFI評価軸の概要)

- ・ 研究内容：技術課題の指標が明確か、新規性、革新性、優位性があるか
- ・ 社会実装のイメージ・インパクト：社会的メリット、省エネ効果、CO<sub>2</sub>削減効果、経済効果等が大きいかな
- ・ 政策、先導研究の事業目的との合致
- ・ 総合評価

- ・ VIPテーマ候補の選考については、NEDO先導研究プログラム（新技術先導研究プログラムの内、エネルギー・環境新技術先導研究プログラムを対象とする）の技術課題設定過程において、「課題化に至らなかったが、VIPにおいてより議論を深めたりコミュニティを広げたりすることで、アイデアを熟成させることができるテーマ」であるか等の観点から、候補を絞りこむものとする。

① 既存の研究開発プロジェクトとの関係に関する整理・分析

VIPテーマ候補について、技術シーズの技術分野や技術成熟度（TRL）<sup>iii</sup>に基づき整理するとともに、関連する既存の研究開発プロジェクトとの関係を、RFIの情報提供書の補足情報「情報提供する内容と関係する研究開発の実施状況」等を参考に分析し、下記Ⅰ～Ⅳの分類にまとめる。

さらに、今後の展開として、既存の国プロの中の新規領域に加えることや、新規国プロの組成の検討ができる、という利点が見いだせるか候補の確認と検討を行う。

	分類	検討方針
Ⅰ	既存技術や国プロ等の具体的な技術領域・研究テーマに関連し位置づけられる。	VIP検討対象に含めない
Ⅱ	既存技術や国プロ等の技術領域に係わるが、新規研究テーマである。	技術の革新性等の評価を行う
Ⅲ	既存技術や国プロ等で扱っていない新たな技術領域である。	事業性の評価を行う
Ⅳ	既存技術や国プロ等で扱っていない産業領域・技術領域である。	市場性の評価を行う

② シーズの価値を高められる議論点の検討

VIPテーマ候補については、「①既存の研究開発プロジェクトとの関係に関する整理・

分析」の分類による対応方針に基づき、分類のⅡ～Ⅳと評価される案件について、シーズの価値を高められる議論点がないか検討すると共に、以下に例示する観点から分析を行う。

(分析の観点)

- ・用途/ニーズの具体性
- ・技術の汎用性、広がりを見通し
- ・市場規模、インパクト
- ・組合せ技術及び組合せ効果
- ・支援の方向性（資金規模、ベンチャー/スタートアップ系支援か、国プロ向きか等）
- ・産業界からの呼び込み効果

### ③ VIPテーマの確定

VIPテーマについては、スケジュールを踏まえたうえで、NEDO内での公募課題化に向けての検討を基礎に、前記の検討を加味し協議の上、今年度実施するVIPワークショップの案件と、今後VIPで継続して扱いを検討する案件とに分けるものとする。その際、(2)項に記載する、ワークショップの参加者が多く見込めるような事前情報（例として期待する技術分野、聴講したい分野等）についても可能であれば参考とする。

- ・今年度実施するVIPワークショップの案件については、本調査公募の時点でNEDO内のプロジェクト推進部署より数件のVIPワークショップの活用希望候補を得ていることから、これを基礎に案件検討を行う。検討後、NEDOから該当案件のRFI提出者へワークショップへの参加意向を確認し、確定案件とする。参加意向の確認を打診する件数は10件以内を想定する。また、発表登壇者の参加意向も踏まえ、最終的な実施案件数は5件程度とする。
- ・今年度のVIPワークショップ対象案件とならず、VIPで継続して検討すべき有望案件については、今後検討すべきVIPテーマとしてまとめ、(4)総合分析において、NEDOへの提案事項に含めるものとする。

### ④ VIPテーマの分析資料作成

VIPで議論を行う事前検討資料とするため、「②シーズの価値を高められる議論点の検討」を踏まえ、VIPテーマについて深掘した分析シートを作成する。対象の技術課題の背景となる技術動向を分析するため、技術論文等の情報を調査し、特に世界の動向や日本の相対的ポジションについて把握できるように補足情報を収集する。調査に当たってはNEDOイノベーション戦略センター（TSC）の発信している調査報告等も活用し、効率的に進めること。

- ・分析シートを作成するVIPテーマは「③VIPテーマの決定」で打診する案件を含めること。（件数は10件以内を想定している。）

## (2) VIP ワークショップの開催

RFI情報提供者である産学研究者が、保有する当該技術シーズについての情報発信とネットワーク形成を加速することを支援するため、VIPワークショップを開催する。ワークショップではRFI提出者および関係者による発表と、参加者による技術課題の共有と議論を行う。

ワークショップの開催にあたっては、アドバイザーとなる有識者を参加させることで、研究者に対してフィードバックし、次回以降の情報提供依頼（RFI）提案につなげるよう支援する。技術シーズを保有する産学研究者が主体的に情報発信やネットワーク形成に取り組めるように、効率的、効果的な手法を提案すること。

また、一般聴講者に産業界からの参加が多いことを鑑み、今後のマッチングにつながる産業界からの呼び込み効果の観点から、参加者が多く見込めるような方法を提案すること。（例として、期待する技術分野、聴講したい分野等の事前情報をSNS等のソーシャルメディアの活用により取得するなど）

- ・技術分野の指定に関しては下記を参考とする。（VIPの対象は、新技術先導研究プログラムの内、エネルギー・環境新技術先導研究プログラムを想定している。）

「NEDO先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム及びフロンティア育成事業」に係る情報提供依頼（RFI）について

[https://www.nedo.go.jp/koubo/SM2\\_100001\\_00092.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/SM2_100001_00092.html)

添付スライド資料「情報提供書Web入力フォーム説明書」p3-5

<https://www.nedo.go.jp/content/800027971.pdf>

### 【開催準備について】

VIPワークショップを支障なく開催できるようNEDOと役割分担を定め、協力して計画、準備すること。

- ・想定トラブルと対処法についてあらかじめ計画を作成の上、運営マニュアルを整備しNEDOの了承を得ること。
- ・当日の進行状況をモニターし運営に反映できるよう体制を整えること。

### 【開催方法について】

開催の方法（原則ハイブリッド開催とする）は、NEDOと協議の上、決定する。会場

はNEDO高輪ゲートウェイオフィス（2026年4月から運用開始）の利用を基本（日程確定次第、NEDOで確保）とするが、必要が生じた場合はNEDOと協議の上、近傍（川崎や東京都心など）の会議室を確保すること。また、当日資料準備、開催日程調整、関係者への各種連絡、議事録作成、有識者への交通費／謝金支払い等（必要と判断される場合）を行うこと。参加者はNEDO関係者、官庁関係者、連携機関、発表登壇者、およびその関係者、その他の有識者、一般聴講者（NEDOがホームページ等でイベント開催の案内する）からなる。

- ・技術シーズ件数：5セッション（開催5日）、5件程度  
（参考例：2023年実施：6セッション（開催6日）14件、2024年実施：4セッション（開催4日）5件、2025年実施：5セッション（開催5日）8件）
- ・開催時期は2026年7月初旬を想定する。なお、2026年度のVIPワークショップ開催は、2026年度の情報提供依頼（RFI）の実施時期（例年7月から8月）にかかると見込まれることから、NEDOが行っている情報提供依頼（RFI）の説明会とのコラボレーションについて可能な範囲で行う可能性がある。
- ・有識者については必要性を検討の上、NEDOの指示に基づき構成メンバーの選定。（3名程度までを想定）
- ・一般聴講者の参加する公開パートと、限定参加者による非公開パートを設けること。一般聴講者の参加方法について、議論の活性化の観点から効率的、効果的な手法を提案すること。
- ・参加者募集、開催連絡にあたってはNEDOと効率的な方法について協議の上、連携して行うこと。

### （3）VIPフォローアップ

#### ① 前回発表テーマに対するフォローアップ

2025年実施したVIPワークショップでの発表テーマを対象に、ワークショップの開催を経た後の取組に関するアンケートを行い、RFI提出者が得られた助言や指摘の有効性、他の参加者からのコメントやコンタクトなどの有益情報等の有無を把握する。結果を取りまとめるとともに、今後のVIPワークショップ開催に向けた改善点等についても検討する。

#### ② 今回開催のVIP発表テーマに対するフォローアップ

今回開催するVIPにおいて発表を行う産学研究者や参加者に対するアンケートを実施し、その結果を取りまとめること。

助言や指摘等のフィードバックの有効性、他の参加者からのコメントやコンタクトな

どの有益情報等の有無を把握する。特に発表者や参加者の行動変容の観点から、開催の有効性につながる結果が得られたか取りまとめるとともに、今後のVIPワークショップ開催に向けた改善点等があれば検討する。

#### (4) 総合分析、議論および提言

NEDO先導研究プログラムにおける未来像、戦略の実現、先進的な研究開発を加速度的に促進する取り組みの観点から総合分析を行い、専門家やステークホルダらの意見を踏まえ、提言としてまとめる。

今後検討すべきVIPテーマとして、「(1) VIPテーマ候補の分析・選考」で検討し、今年度のVIPワークショップに含まれない有望案件については、分析結果と考察を提案にまとめること。VIPの実施ケースについては、有効なインキュベーションプロセスについて分析し、有効性の評価や、定着に向けての改善策等をまとめる。また、次回以降のRFI募集に際して、RFI提出者へのフィードバックとして有効な発信情報に含めるべき内容(RFIの活用実績が一例)があれば検討し提示する。

・必要により有識者(産業界、学術、国研等)ヒアリングを行い、情報を補足すること。

#### (5) 報告書の取りまとめ

調査内容を、成果物として報告書(和文)の形に取りまとめる。必要に応じて、検討会議等の場において進捗等を報告(適宜)するほか、最終報告会を開催する。

報告書には公開部分と非公開部分を設ける。非公開部分にはヒアリング等の議事録、NEDOへの提言等を含める。

### 4. 調査期間

NEDOが指定する日から 2026年8月31日まで

### 5. 予算額

2,000万円以内

### 6. 報告書

報告書については下記とする。

提出期限： 期間終了後には調査報告書を所定の期日までに提出。

提出方法： NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、

提出のこと。 <https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

## 7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、調査事業成果報告会における報告を依頼することがある。

## 8. その他

本仕様書に定める事項については、随時NEDOと調整の上実施する。また、本仕様書に定めなき事項については、NEDOと実施者が協議の上で決定することとする。

以上

---

i ビジヨナリー・インキュベーション・プログラム (VIP) は、先導研究プログラムにおいて、現時点で公募課題の対象とすることが難しいテーマであっても、コミュニティーを広げることが有望と思われるテーマについて、ワークショップの開催等による支援により、提案する研究者がワークショップ参加者との議論を深め、当該技術シーズに基づくビジョンを具体化していくもの。

ii RFI で取得される情報については、2024 年度の例では、「①研究開発テーマ名」、「②達成すべき技術課題」、「③技術・事業分野」、「④-1 国の戦略」、「④-2 技術成熟度 (TRL)」、「⑤-1 先導研究の内容 (技術的な問題点と解決手段)」、「⑤-2 研究開発テーマの革新性」、「⑤-3 研究開発テーマの従来技術や競合技術に対する優位性」、「⑥ 社会実装のイメージ・インパクト」、「⑦類似する研究開発プロジェクト (該当ある場合のみ)」、「⑧ 既提案先部署名 (該当ある場合のみ)」、「⑨-1~5 国際共同研究に関する情報」、「⑩NEDO VIP ワークショップの活用 (任意)」、機関名 (法人名) 等の情報、および情報提供書補足情報がある。

iii 研究開発テーマの技術成熟度 (Technology Readiness Level: TRL) (文献等をもとに本プログラム用に作成)

TRL 1 : 科学的な基本原理・現象の発見・確認

TRL 2 : 原理・現象の定式化、応用可能性の確認、応用的な研究

TRL 3 : 技術コンセプトの確認、要素技術の構想 (創案・調査・予備実験・設計など)

TRL 4 : 各開発要素の製作と性能確認、応用的な開発 (要素レベル)

TRL 5 : 全てを統合した実証システム (試作品) の製作 (要素レベル)

TRL 6 : 実証システム (試作品) の導入環境に近い環境での実証 (システムレベル)

TRL 7 : 製品候補の製作と導入環境での実証 (システムレベル)

TRL 8 : 製品の製作と販売 (パイロットライン)

TRL 9 : 商品化、大量生産